

**戦略的芸術文化創造推進事業
5年成果報告書**

団体名称	公益財団法人日本オペラ振興会
担当者連絡先	(担当部署) 事務局 (氏 名) 仁科 岡彦 (電 話) 044-819-5505 (アドレス) nishina@jof.or.jp

1. 事業内容

課 題	課題 i : 我が国の文化芸術による国家ブランドの構築と経済的価値等の創出や国際発信力を高めるための新たな展開に関する取組	
事 業 名	《契約件名》	ベルカントオペラフェスティバル イン ジャパン
事業期間	平成 30 年 5 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 29 日 ※契約期間を記載	
事業内容	<p>①「フランチェスカ・ダ・リミニ」公演 ヴァッレ・ディトリア (マルティーナ・フランカ) 音楽祭との提携オペラ公演。2019年3月27日 (水) 開演18:30 テアトロ・ジーリオ・ショウワ オペラ「フランチェスカ・ダ・リミニ」サヴェーリオ・メルカダンテ作曲 指揮: セスト・クアトリーニ 演出: ファビオ・チェレーザ コレペティートル: カルメン・サントーロ 出演 ソプラノ: レオノール・ボニージャ、メッゾ・ソプラノ: 脇園彩、テノール: メルト・スグレー バス: 小野寺光 他3人 合唱: 藤原歌劇団合唱部 40人 管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団 (招聘者12人、指揮1、演出1、プランナー3、振付1、歌手3、バレエ2、コレペティートル1) ”</p> <p>②若手歌手育成プログラムコレペティートルであるカルメン・サントーロ指導によるフランチェスカ・ダ・リミニを中心として題材で若手歌手育成プログラムを実施する。本年9月に公募し (東アジアの歌手にも参加を呼び掛ける) 12月に研修生決定、3月に約3週間研修しユリホール (300人) にて3月22日に研修発表会を実施、関連してヴァッレ・ディトリア (マルティーナ・フランカ) 音楽祭の展示会も実施。(海外参加者3名)</p> <p>③シンポジウム3月26日 アルベルト・トゥリオラ (ヴァッレ・ディトリア音楽祭芸術監督)、ジャンカルロ・ランディーニ (音楽評論家)、折江忠道 (藤原歌劇団総監督)、カルメン・サントーロ (コレペティートル) によるシンポジウム開催。昭和音大内C511教室。</p> <p>※事業年ごとの内容を記載。 ※写真等のデータを用い、詳細を記載すること。</p>	
URL	※成果報告の内容が分かるページを記載	

戦略的芸術文化創造推進事業
5年成果報告書

団体名称	公益財団法人日本オペラ振興会
担当者連絡先	(担当部署) 事務局 (氏名) 仁科 岡彦 (電話) 044-819-5505 (アドレス) nishina@jof.or.jp

1. 事業内容

課題	課題 i : 我が国の文化芸術による国家ブランドの構築と経済的価値等の創出や国際発信力を高めるための新たな展開に関する取組	
事業名	《契約件名》	ベルカントオペラフェスティバル イン ジャパン 2019
事業期間	平成 31 年 4 月 1 日 ~ 令和 2 年 1 月 31 日 ※契約期間を記載	
事業内容	<p>①オペラ「貞節の勝利」 オペラ公演として2018年8月のヴァッレ・ディトーリア音楽祭で3人の若手演出家の共作し好評を得たオペラA. スカルラッチ作曲「貞節の勝利」を執り行ったが、3人の演出家の来日が叶わず、ジャコモ・フェッラウ、リベロ・ステッルーティ両氏による演出、指揮者としてイタリア中心にヨーロッパで活躍しているバロック音楽の第一人者アントニオ・グレーコをお迎えし、2019年11月15(金)、17日(日)両日14:00開演、テアトロ・ジューリオ・ショウワにてこの作品を執り行い、大好評を得る。出演者はリッカルド(Sop): 迫田美帆、レオノーラ(Mez): 米谷朋子、ドラリーチェ(Sop): 伊藤晴、フラミーニオ(Ten): 小堀勇介、コルネリーア(Ten): 山内政幸、ロジーナ(Mez): 但馬由香、ロディマルテ(Bri): イタリアよりパトリーツィオ・ラ・プラーカ、特筆すべきはこちらもイタリアより招聘したカウンターテナーのラッファエーレ・ペーと豪華な日伊合同の出演者となる。そして演奏を引き締めたのはコンサートマスターとしてイタリアより招聘したヴァイオリンのジャン・アンドレア・グエッラを中心に指揮のアントニオ・グレーコの指示を的確に表現したベルカント・オペラフェスティバル管弦楽団の面々、バロック音楽を専門とする奏者がこのフェスティバルの為に招集したチームワークの取れた水準の高い演奏を披露する。舞台面では招聘した美術プランナー: ステファノ・ズッコを中心に残念ながら来日することなくイタリアで日本のスタッフに指示をした衣裳プランナー: サーラ・マルクッチと照明プランナー: ジュリアーノ・アルメリーギがナポリを舞台設定とした奥行きのある舞台創作をする。また、演出家と共に作品を盛り上げたのは振付: リッカルド・オリヴィエール、助手のアレックス・マッケープの2人。この公演を幅広く支えているのは芸術監督: カルメン・サントーロと公演監督: 折江忠道であり、音楽面は当然のこと舞台の詳細までしっかりと見え守っていただき、公演のみならずこのベルカントオペラフェスティバルインジャパンの重鎮として世界トップクラスのフェスティバルに仕上げている。</p> <p>②マスタークラス及びコンサート このフェスティバルのもう一つの重要なテーマである優れたオペラ歌手の育成事業としてマスタークラスを前回に引き続き執り行うが、名称をオペラ・ストゥーディオとしている。2019年6月中旬にオペラ・ストゥーディオ生を当振興会HPにて全世界に募集を行ったが残念ながら日本人のみの応募となる。7/13に第一次オーディションを執り行い(19名)その後このコースのヴォーカルコーチ及びコルペティートルコーチとして芸術監督: カルメン・サントーロさんによる第2次オーディション(映像審査)にて歌手7名ピアニスト3名が合格となる。10月16日よりカルメンさん3週間のコーチングにより世界に通用する歌手の育成を図りその成果発表として11月16日(土)昭和音楽大学南校舎にあるユリホールにてベルカントコンサートを執り行う。選曲はバロック及びベルカント声楽曲とベルカントオペラ作品に絞った構成で、声の美しさを堪能することができるだけでなく歌手のテクニックの向上に目を見張るものを有し、当初の目的の通り、出演者は一歩二歩と世界的レベルに近づくことができた。</p> <p>ベルカント・コンサートに出演した未来の世界的歌手は、ソプラノ: 石岡幸恵、楠野麻衣、來崎寛未、富松杏奈、メゾソプラノ: 杉山沙織、テノール: 佐佐木雄一郎、バスバリトン: 小野寺光、ピアニストは小松桃、高瀬さおり、吉田彩、賛助出演としてメゾソプラノ: 高橋未来子。</p> <p>③バロックコンサート 当初はバロック歌曲コンサート及びドニゼッティ歌曲コンサートを昭和音楽大学内で催す予定であったが、日本のトップカウンターテナー歌手: 藤木大地のヨーロッパおよび日本における好評を耳にし、急遽会場をテアトロ・ジューリオ・ショウワに移し、今やベルカント作品ではかかせない日本のソプラトトップ歌手: 光岡暁恵による「バロックコンサート」を11月16日(土)に、指揮: アントニオ・グレーコ、第1ヴァイオリンとしてジャン・アンドレア・フェッラの第2ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスによるBOFバロックアンサンブル演奏で、バロック時代の巨匠A. スカルラッチ、G. F. ヘンデル、C. モンテヴェルディ、A. ヴィヴァルディの作品の他、G. カヴァッリ、B. マリーニ、G. ジャコモッリ等の貴重な作品も紹介し世界的レベルに到達したコンサートとなる。</p>	

	<p>④シンポジウム 前回も好評を博したシンポジウムを今回は11月14日（木）昭和音大内ユリホールにてバロックオペラ・ナポリ学派に内容を絞って語り、バロック様式、カストラート歌手の歴史、バロックオペラ公演の現況を話し合う貴重な機会となる。講師として前回同様にBOF芸術監督：カルメン・サントーロ、藤原歌劇団総監：督折江忠道、指揮者：アントニオ・グレーコその他、イタリアより音楽評論家・ジャンカルロ・ランディーニ、ドイツより音楽評論家：エヴァ・プロイスを招聘し、世界的なシンポジウムに通訳：井内美香の訳が華麗で適格な言葉で観客を魅了し、花を添える様だ。</p> <p>⑤国内外広報・情報発信 国内外における広報としては、当財団のHPに日本語及び英語にてこのフェスティバルの概要、オペラ・ストゥーディオ生募集等にも使用している。国内については業務委託しているスイングをはじめ、ハンナ、エリアブレイン、東宝プラン、朝日エージェンシー、東京MDE、品川ポスターサービス、プレルーディオ等を通じて広く広報に努めており、海外はHPの他、イタリア文化会館、イタリア大使館等イタリア関連の事務所、西洋美術館を中心に音楽関係の事務所等にチラシ等に配布のほか、前回のBOFについてイタリアの音楽雑誌「オペラ」にて2ページにわたり、大絶賛していただき、大きな宣伝をして頂いており、引き続き今回BOFについても同雑誌に制裁していただくことになり、今回招聘して音楽評論家によるヨーロッパにおける音楽雑誌にも掲載していただくなど今後の広報の軸となっていく。</p> <p>※事業年ごとの内容を記載。 ※写真等のデータを用い、詳細を記載すること。</p>
URL	<p>※成果報告の内容が分かるページを記載</p>

戦略的芸術文化創造推進事業
5年成果報告書

団体名称	公益財団法人日本オペラ振興会
担当者連絡先	(担当部署) 事務局 (氏名) 仁科 岡彦 (電話) 044-819-5505 (アドレス) nishina@jof.or.jp

1. 事業内容

課題	課題 i : 我が国の文化芸術による国家ブランドの構築と経済的価値等の創出や国際発信力を高めるための新たな展開に関する取組
事業名	《契約件名》 ベルカントオペラフェスティバル イン ジャパン2020
事業期間	令和 2 年 5 月 1 日 ~ 令和 3 年 2 月 15 日 ※契約期間を記載
事業内容	<p>1 ジュリエッタとロメオ (キャンセル) 【この公演は海外招聘者が新型コロナの影響で来日できなかったためキャンセルとなりました。】 オペラ「ジュリエッタとロメオ」 全2幕 ヴァッカイ作曲 原語上演字幕付き 2020年12月4日 (金)、6日 (日) 両日14:00開演 会場: 昭和音楽大学テアトロ・ジューリオ・ショウワ</p> <p>2 小荘厳ミサ【キャンセルとなったベルカントオペラ「ジュリエッタとロメオ」に代わり、急遽ベルカント最高峰の作曲家G. ロッシーニのミサ曲を選出し、照明及び映像を駆使した特別なコンサートを開催】 ベルカントオペラフェスティバル イン ジャパン2020 特別コンサート ロッシーニ作曲「小荘厳ミサ曲」2020年12月6日 (日) 15:00開演 会場: 昭和音楽大学テアトロ・ジューリオ・ショウワ 芸術監督・ピアノ/カルメン・サントーロ 指揮: 園田隆一郎 ソリスト; ソプラノ: 迫田美帆 アルト: 松浦麗 テノール: 澤崎一了 バス: 小野寺光 合唱: 藤原歌劇団合唱部 管弦楽: テアトロ・ジューリオ・ショウワ・オーケストラ 舞台監督/八木清市 照明操作/劇光社 S: ¥5,000 A: ¥4,000 B: ¥3,000 入場者数: 236名 (内招待36名)</p> <p>3 バロックコンサート 【バロックオペラを専門とするカウンターテノール及び弦楽アンサンブルとこの部門に精通した藤原歌劇団歌手による、G. E. ヘンデルの作品を中心に選曲した1日限りの夢の饗宴コンサート】 2020年12月5日 (土) 14:00開演 会場: 昭和音楽大学テアトロ・ジューリオ・ショウワ ソプラノ: 光岡暁恵 メゾソプラノ: 向野由美子 カウンターテノール: 上杉清仁 弦楽アンサンブル: アンサンブル・パルテノペ S: ¥4,000 A: ¥3,000 B: ¥2,000 入場者数: 137名 (内招待11名)</p> <p>4 ベルカンティッシモ・コンサート【未来の藤原歌劇団を担う若手歌手7名とオペラ・ストゥーディオ選抜メンバー2名による照明及び映像を駆使したベルカント作曲家であるドニゼッティ、ベッリーニ、ロッシーニ、ヴァッカイのオペラから選曲したコンサート】 2020年12月4日 (金) 14:00開演 会場: テアトロ・ジューリオ・ショウワ ソプラノ: 楠野麻衣・別府美沙子・横前奈緒 メゾソプラノ: 古澤真紀子・松浦麗 テノール: 有本靖人・高島伸吾 バリトン: 岡昭宏 バス: 後藤春馬 ピアノ: 浅野菜生子・高島理佐・林直樹 舞台監督/八木清市 照明操作/劇光社 S: ¥3,000 A: ¥2,000 B: ¥2,000 入場者数: 96 (内招待10名)</p> <p>5 シンポジウム【ベルカントの巨匠であるG. ロッシーニについて世界的なメゾソプラノ歌手、イタリア音楽評論家を交えて多角的にディスカッションを行う。(イタリアとオンラインによる講座)】 2020年12月3日 (木) 18:00開演 会場: 昭和音楽大学南校舎C511教室 芸術監督: カルメン・サントーロ 藤原歌劇団総監督: 折江忠道 メゾソプラノ: ダニエーラ・バルチェッローナ 音楽評論家: ジャンカルロ・ランディーニ・小畑恒夫 入場無料 入場者数: 96名</p> <p>6 オペラストゥーディオ ベルカントコンサート【ベルカント様式を身に着ける歌手の育成及びコレパティートルの輩出を目指したオペラ・ストゥーディオ参加者による成果発表のコンサート】2020年12月1日 (火) 18:00開演 会場: 昭和音楽大学ユリホール ソプラノ: 木田悠子・塚本正美・別府美沙子・水野友貴・メゾソプラノ: 宇津木明香音・吉成文乃 テノール: 工藤翔陽・高島伸吾・バリトン: 高橋宏典 バス: 後藤春馬 ピアノ: 秋池朝子・小松桃・本橋亮子・横山希 入場無料 入場者数: 96名</p> <p>※事業年ごとの内容を記載。 ※写真等のデータを用い、詳細を記載すること。</p>
URL	※成果報告の内容が分かるページを記載

戦略的芸術文化創造推進事業
5年成果報告書

団体名称	公益財団法人日本オペラ振興会
担当者連絡先	(担当部署) 事務局 (氏名) 仁科 岡彦 (電話) 044-819-5505 (アドレス) nishina@jof.or.jp

1. 事業内容

課題	課題 i : 我が国の文化芸術による国家ブランドの構築と経済的価値等の創出や国際発信力を高めるための新たな展開に関する取組
事業名	《契約件名》 ベルカントオペラフェスティバル イン ジャパン 2021
事業期間	令和 3 年 7 月 2 日 ~ 令和 4 年 3 月 31 日 ※契約期間を記載
事業内容	<p>①オペラ「ジュリエッタとロメオ」 “【オペラ「ジュリエッタとロメオ」 全2幕 ヴァッカイ作曲 原語上演字幕付き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年3月17日(木)、19日(土) 両日14:00開演 ・会場: 昭和音楽大学テアトロ・ジューリオ・ショウワ コンサート形式(簡易な演出付) <p>【ベルカントオペラフェスティバルインジャパン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術監督/カルメン・サントーロ <p>【ヴァッレ・ディトリア音楽祭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術監督/セバスチャン・シュヴァルツ ・指揮/鈴木恵里奈 ・演出/チェチーリア・リゴーリオ ・出演/ジュリエッタ(Sop): 伊藤晴 ロメオ(MSop): 松浦麗 カペッリオ(Ten): 澤崎一了 テバルド(Br): 岡昭宏、ロレンツォ(Bs): 小野寺光、 アデーリア(MSop): 斎藤純子、 合唱: 藤原歌劇団合唱部、管弦楽: テアトロ・ジューリオ・ショウワオーケストラ ・美術/アレッシア・コロツソ ・衣裳補/ベアトリーチェ・パルミザーノ ・照明/マルコ・ジュステイ ・舞台監督/八木清市 ・照明操作/A. S. G. ” <p>②オペラストウーディオ実施 “【カルメン・サントーロ女史による若手オペラ歌手育成アカデミー講習】</p> <p>日程: 2022年1月19日~3月 会場: 昭和音楽大学内”</p> <p>③オペラストウーディオコンサート “【アカデミー参加者の成果発表・無料コンサート】</p> <p>日程: 3月7日(月) 会場: 昭和音楽大学ユリホール ”</p> <p>④ベルカントオペラ名場面コンサート “【ラッファエレ・ペー他藤原歌劇団歌手5名出演予定によるコンサート 無料公演】</p> <p>日程: 3月11日(金) 会場: 昭和音楽大学ユリホール ”</p> <p>⑤バロックコンサート “【ラッファエレ・ペー・光岡暁恵・ピアニスト出演によるバロック声楽曲を中心としたコンサート】</p> <p>日程: 3月18日(金) 会場: 昭和音楽大学テアトロ・ジューリオ・ショウワ ラッファエレ・ペーは映像にて出演”</p> <p>⑥シンポジウム “【イタリア楽派の歌唱メソッドについて】</p> <p>日程: 3月16日(水) 会場: 昭和音楽大学C511教室 登壇者: カルメン・サントーロ、アルベルト・トリオーラ、セバスチャン・シュヴァルツ ミケーレ・ペルトウージ、グレゴリー・クンデ、折江忠道 ほか”</p> <p>※事業年ごとの内容を記載。 ※写真等のデータを用い、詳細を記載すること。</p>
URL	※成果報告の内容が分かるページを記載

**戦略的芸術文化創造推進事業
5年成果報告書**

団体名称	公益財団法人日本オペラ振興会
担当者連絡先	(担当部署) 事務局 (氏 名) 仁科 岡彦 (電 話) 044-819-5505 (アドレス) nishina@jof.or.jp

1. 事業内容

課 題	課題 i : 我が国の文化芸術による国家ブランドの構築と経済的価値等の創出や国際発信力を高めるための新たな展開に関する取組
事 業 名	《契約件名》 ベルカントオペラフェスティバル イン ジャパン2022
事業期間	平成 4 年 5 月 19 日 ~ 令和 5 年 3 月 31 日 ※契約期間を記載
事業内容	<p>①オペラ「オテッロ」 全2幕 ロッシーニ作曲 原語上演字幕付き 2023年1月20日(金)、22日(日) 両日14:00開演 会場: 昭和音楽大学テアトロ・ジューリオ・ショウワ</p> <p>ベルカントオペラフェスティバルインジャパン芸術監督/カルメン・サントーロ ヴァッレ・ディトリア音楽祭芸術監督/セバスチャン・シュヴァルツ 指揮/ルーカ・バッラピオ 演出/ルイス・エルネスト・ドニヤス 出演/ オテッロ (Ten) : ジョン・オズボーン、デズデモナ (Sop) : レオノール・ボニツジャ、ロドリゴ (Ten) : ミケーレ・アンジェリーニ、ヤーゴ (Ten) : アントーニオ・マンドウリッロ、エルミーロ (Bas) : トーニ・ネジチュ、エミーリア (Sop) : 藤井泰子、総督/ゴンドラ乗り (Ten) 渡辺康、ルーチョ (Ten) : 西山広大 (Ten)</p> <p>合唱: 藤原歌劇団合唱部 管弦楽: ザ・オペラ・バンド 美術/キアラ・ラ・フェルリータ 衣裳/マイケル・マルティネス 照明/フィアンメッタ・バルディッセルリ 演出助手: マリア・ファランタ 舞台監督/八木清市 照明操作/劇光社 映像操作: まくうち 衣裳操作/モマ・ワークショップ ヘアメイク/丸善 合唱指揮: 須藤桂司</p> <p>②オペラストーリーディオ2022年12月1日~2023年1月22日 イタリアと日本で対面及びZOOMにて声楽レッスンをを行う。 会場: 日本オペラ振興会黒川稽古場、及び昭和音楽大学内</p> <p>③オペラストーリーディオコンサート (アカデミー参加者の成果発表・無料公演) 1月7日(土) 会場: 稲城iプラザホール</p> <p>④オペラセミステージ形式オペラコンサート (アカデミー参加者による成果発表・無料公演) オペラ「パリのジャンニ」ドニゼッティ作曲 1月14日(土) 会場: 稲城iプラザホール</p> <p>⑤BOF2022シンポジウム 「ロッシーニのオペラ・セリア、ナポリのための作品 (参加者: セバスチャン・シュヴァルツ、カルメン・サントーロ、ミケーレ・ペルトウージ、折江忠道) 1月19日(木) 会場: テアトロ・ジューリオ・ショウワ</p> <p>⑥バロックコンサート 出演者: レイ・シュネ・光岡暁恵・BOFバロックアンサンブル 1月21日(土) 会場: イイノホール</p> <p>⑦オペラガラコンサート 出演者: レオノール・ボニツジャ、伊藤晴、光岡暁恵、レイ・シェネー、ミケーレ・アンジェリーニ 他 1月16日(土) 会場: 昭和音楽大学ユリホール</p> <p>※事業年ごとの内容を記載。 ※写真等のデータを用い、詳細を記載すること。</p>
URL	※成果報告の内容が分かるページを記載

2. 事業の目標・成果

1 公演数・観客数等定量的な成果について 各年度の実績及び次年度に向けての取組みについて記載。				
初年度における 5年後目標	(単位：)	H30	H31 (R1)	R2
海外のオペラフェスティバルと提携して日本に於ける国際的なオペラフェスティバルを恒常的に実施することにより日本全国でのオペラ普及振興に資し、5年後の目標は日本発のプロダクションによる海外公演の実施と国際的に活躍する日本人オペラ歌手の育成増強を図る。目標入場者の増加を目指し海外からの観客動員も視野に入れる。また必ず中国、韓国アーティストが1名以上参加する事により日中韓の連携を図る。H30年度(2018年度)第1回ベルカントオペラフェスティバル イン ジャパン(目標入場者1,500人、国内外でのメディア掲載20回)	単年度目標	オペラ入場者率75%	目標入場者2000人	目標入場者3000人
	実績	オペラ入場率70%	1,800人	1,200人
	各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	H31年度に向けて…スケジュールの都合で年度末ギリギリの公演となったため時期を早め、コンサートの数も増やしたい。	R2年度に向けて…次年度よりコンサートの数を増やす計画。	R3年度以降に向けて…コロナ禍のよりオペラの代替公演を実施。ただし入場者は最低に落ち込んでいる。次年度は今年度できなかったオペラを1年越しで公演を実施する。
	(単位：)	R3	R4	達成率
	単年度目標	目標入場者3,500人	目標入場者5,000人	70%
実績	1,300人	3,500人		
各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	R4年度に向けて…昨年上演できなかったオペラを上演でき、演奏会形式ながら2本目のオペラを上演出来た。次年度はより意欲的な演目とキャストイングを目指す。	R5年度以降に向けて…この事業を継続したく現在模索中。	最終年で目標入場者の70%までは回復できた。	
2 <課題解決>における成果について 「我が国の文化芸術による国家ブランドの構築と経済的価値等の創出や国際発信力を高めるための新たな展開に関する取組」について、各年度において課題解決するための取組目標及び事業実施による成果・変化、次年度に向けての取組を記載。				
初年度における 5年後目標と現状		H30	H31 (R1)	R2
現在の日本では国際的な水準でのオペラフェスティバルは実施されていない。したがってアジアの近隣諸国からわざわざ来日してオペラ鑑賞をすることがない。また国際的な水準での先鋭的な内容のオペラ制作も行われていない。極東の地である日本オペラ界では少しの話題性では欧米のオペラ界で話題になるようなことがないのが現状である。しかしながら2020年の東京オリンピック・パラリンピックをきっかけとして世界共通語でもある「オペラ」を通じて海外と提携しながら日本での振興を深め、優れた歌手や作品を世界発信する今回の企画は大変良い機会だと捉えている。現状のオペラ団体や劇場・音楽堂への助成では現代のオペラ界で世界的に話題になるような優れた作品の制作は不可能に近い。この事業は日本国内、海外の聴衆も視野に入れながら、日本のオペラ団体の枠を超えて世界に発信する事業として実施すべきだと考えている。また、国内外から注目されるレベルを確保することにより、自立した特徴あるオペラフェスティバルとして、アジアを代表するような規模で定着させることも可能だと確信する。	単年度目標	メディア掲載数20	メディア掲載数30	メディア掲載数30
	実績	8	10	7
	各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	H31年度に向けて…年度末ギリギリでの公演のためとあえさず上演にこぎつけたことが何よりであった。舞台セットがなく、映像を駆使した演出は出演者たちの高度な音楽により却って良い相乗効果を生んだ。今回は1回公演であったが次回は2回公演出来るようにしたい。	R2年度に向けて…オペラ「貞節の勝利」は大変好評で、大変面白い傑作オペラであった。コロナ禍に突入して今後の上演が危ぶまれるが引き続き海外関係者とリモートにより密に連絡を取りつつ計画を進めている。	R4年度に向けて…残念ながらオペラ公演はイタリア音楽祭で歌唱した歌手の来日が叶わず次年度に延期となった。代替公演としてロッシニの「小荘厳ミサ」を上演し、シンポジウム、マスタークラスはすべて海外と結んだりリモートで行った。キャストはすべて邦人歌手で賄ったがコンサートすべて実施することができた。次年度は今年度上演できなかったヴァッカイのオペラ「ジュリエッタとロメオ」を何としても上演したい。
	(単位：)	R3	R4	達成率
	単年度目標	メディア掲載数30	メディア掲載数30	50%
実績	10	15		
各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	R4年度に向けて…一昨年延期されたヴァッカイの「ジュリエッタとロメオ」を邦人歌手により何とか上演することができた。次年度は戦略的芸術文化創造推進事業の最終年度にあたるため、演目、内容が過去最高のものになるよう準備を進める。	R5年度以降に向けて…公演のメディア掲載数を増加させることは当団オペラ上演の喫緊の課題と言える。オペラ上演にいかん話題性を持たせることができるか？が問われている。このフェスティバルが一過性のもので終わることなく意義ある事業として継続し、今後も海外音楽祭と提携しスター歌手の大規模なオペラではなく、邦人歌手の育成も含めた良質の作品の上演に引き続き務めたい。	(達成率の根拠) メディア掲載数はなかなか拡大が難しかったが最終年度は話題性も加わり目標の5割には達成することができた。	

3 戦略的芸術文化創造推進事業における課題解決への成果の他に、得られた成果や波及効果について			
(1) 成果内容		(2) 今後、成果を生かせる事業や取組	
<p>当初は国際交流音楽フェスティバルとしては予算が厳しく事業計画に苦慮したが、2年目より当該事業の芸術監督に就任し優れた指導者であるカルメン・サントーロ女史の卓越したプロデュース力により、欧米の有望な若手の歌手、スタッフを招聘することができ、邦人歌手スタッフとのコラボレーションによりこの国際交流音楽祭がコロナ禍を受けつつも続けられたことは意義深いと考えている。またヴァッレディトリア（マルティナ・フランカ）音楽祭で上演され日本での上演が稀または日本初演のメルカダンテ「フランチェスカ・ダ・リミニ」スカルラッティ「貞節の勝利」ヴァッカイ「ジュリエッタとロメオ」ドニゼッティ「パリのジャンニ」ロッシニ「オテッロ」等の作品を次々と日本に紹介し、これらベルカントオペラ作品の良さや面白さを披露できたことは特筆に値する。そして潤沢な予算がなくて舞台は簡素だが音楽的には決して劣ることのない優れた上演を続けることができ、今年度のロッシニ「オテッロ」はその最高峰ともいえる上演成果をあげることができた。また5年間若手オペラのアカデミー（オペラストゥーディオ）を継続し単発ではない継続的なオペラ歌手の育成を続けることができ、年々参加者が増大していることも喜ばしい。シンポジウムも5年間続け、リモートシンポジウムも併用しグレゴリー・クンデやミケーレ・ベルトウージ、ダニエラ・パルチェローナといった世界的オペラ歌手も交えての内容は常に世界のオペラの潮流を考える有意義なものとなった。</p>		<p>戦略的芸術文化創造推進事業は今年度で終了してしまうがこの事業は今後も継続していく意義があり、それこそ当団の使命であると考えている。今後もイタリアを中心とした海外音楽祭との交流を続け、日本のみならずアジア圏のオペラの発展、歌手の育成に努めたい。当初よりこれらベルカントオペラ作品は日本人オペラ歌手に向いていると考えているので、今後も作品の優れた上演による紹介、それに伴っての邦人オペラ歌手のレベルアップを図っていききたい。そしてこのフェスティバルで育った歌手たちが海外をも股にかけて活躍することが出来るよう努力したい。またこのフェスティバルに海外からの観客インバウンドの期待も高まっている。</p>	
4 新型コロナウイルス感染症による影響と取組について			
(1) 影響	(2) 中止・延期をせず、事業実施するための努力	(3) コロナ拡大の影響を通して得たもの、知見	(4) 今後、同様の感染症拡大が起こったことを見据えた取組
<p>2020年12月に上演予定のヴァッカイ「ジュリエッタとロメオ」は海外からキャストの来日が不可能となりオペラ上演は中止し、代替事業としてロッシニ「小荘厳ミサ」に変更した。なお、次年度（2022年3月）に邦人歌手により「ジュリエッタとロメオ」は上演することができた。その他演出家や音楽指導者が来日できずリモートでの指導を行うことは度々あった。</p>	<p>出演者、スタッフは頻りにPCR検査を実施し特に稽古場での感染予防には万全を尽くしたが、それでも度々陽性者がでて稽古の中止を余儀なくされた。代替公演はあったが中止に追い込まれることは1回もなかった。</p>	<p>リモートで特に有効だったのはシンポジウムであった。そのため普通なら招聘不可能なビッグネームが参加することができ、シンポジウムも大変盛り上がった。またリモートでの指導は音楽面では難しい状況もあるが、演出面ではかなり有効性があつた。</p>	<p>実演芸術を行っている限り、今後もコロナ禍のような状況が起こり得ることは想像できる。今後は実演芸術の生の視聴に生配信、オンデマンド配信など並行して実施できるよう検討を続けている。</p>
5 1～4以外に、貴団体において周知したいこと			
<p>日本でのオペラ上演はまだ有名オペラとそうでないものの注目度、関心の差が激しいように感じる。しかしながらこの事業を通じてこのようなベルカントオペラ作品の上演を続けていく事が今後の日本に於けるオペラ上演にとって重要な意味を持つことになるのではないかと感じている。今後も派手ではないが注目される上演を続けていきたい。</p>			
感想・評判	<p>昭和音楽大学の協力を得、新百合ヶ丘の地で続けられている意義あるフェスティバルとして一定のファンを得ることができている。今後このコアなファンをいかに拡大させるかが課題となる。</p>		
	<p>日本初演作品はこの5年間で3本ありメルカダンテ「フランチェスカ・ダ・リミニ」、ヴァッカイ「ジュリエッタとロメオ」、ドニゼッティ「パリのジャンニ」いずれも日本のオペラ関係者の注目を浴びる公演となった。</p> <p>2023年1月に上演されたロッシニ「オテッロ」は主役のジョン・オズボーンの超絶技巧が大喝采を浴び、他のレオノール・ボニージャ、ミケーレ・アンジェリーニら4人の招聘歌手の好演や優れた指揮、演出力によりこれ以上ないと思われる上演成果を挙げることができ、オペラファンが大満足することができた公演となった。</p>		

BOF2018 「フランチェスカ・ダ・リミニ」



BOF2020特別コンサート ロッシーニ「小荘厳ミサ曲」



BOF2021 「ジュリエッタとロメオ」



BOF2022バロックコンサート



BOF2022「オテッロ」



BOF2021シンポジウム

